



しまね学習支援プログラム「地域魅力化プログラム」を活用したファシリテーター養成講座修了者のみなさんのその後をお伝えしていきます。



生命地域ラボ (県立飯南高等学校 高校生の地域活動の取組) 「地域の方と意見交換しよう！」の ファシリテート経験より

飯南高校魅力化CN 永瀬 友真 さん

永瀬さんは、島根県が策定している「県立高校魅力化ビジョン」を推進する「高校魅力化CN」として、県立飯南高校と地域をつなぐ役割を果たしています。東部社会教育研修センターにおける「ファシリテーター養成講座」「コーディネーター研修」「社会教育基礎講座」で学ばれたことを活かし、「高校生の地域活動の取組」についてファシリテートをされることになりました。

●飯南高校生と地域の方の意見交換会をファシリテート！

ー今回ファシリテートされる高校生と地域の交流や「生命地域ラボ」について教えてくださいー

永瀬 飯南高校の「生命地域ラボ」は「生徒のやりたいをカタチにする」有志のクラブ活動です。「生命地域宣言」をしている飯南町をフィールドとした飯南高校のキャリア教育を「生命地域学」と呼んでいます。「生命地域」とは、「自然の営みと人々の暮らしが調和した持続的に発展可能な地域であり、個々の人々の活動が、地域の中で有機的につながりあい、一つの生命のように秩序を保っている」という意味です。飯南高校では次の時代を主体的に切り拓くために、特に「3つの力～関わる力・描く力・発信する力」を大切にしています。今回は高校生の地域活動の推進のために、飯南高校の「生命地域ラボ（高校生の地域活動の取組）」のメンバーと地域の方との意見交換をする場でファシリテートするはこびとなりました。

ー意見交換のワークショップに向けてどんな準備をされましたかー

永瀬 前年度に受講した「ファシリテーター養成講座」で、話し合いのテーマやねらいに対してどのような進行プログラムを作成すればよいか、「地域魅力化プログラム」の展開例等から学んだことを活かし、今回のワークショッププログラムを考え、レジュメを作成しました。これを元に派遣社会教育主事、飯南高校の先生方と事前相談や打ち合わせ、ねらいの共有をし、当日を迎えました。高校生と地域の方で積極的な情報・意見交換をしてほしいと思い、参加型学習の手法（ブレインストーミング、ワールド・カフェ）を取り入れました。ワークショップの流れについて高校生とも事前に打ち合わせをしました。高校生が日頃疑問に感じていることや飯南町の未来などテーマ設定し、2つの話し合いをとり入れ、交流会のファシリテートを行いました。



●参加者（高校生と地域の方）の主体性・積極性を引き出すために

ー当日のファシリテートはいかがでしたかー

永瀬 今回のワークショップの目的、将来のキャリアステージを見据えて大切なこと「自分の考えを堂々と人に伝えること！」を高校生にはじめに伝え、ファシリテートしました。アイスブレイクで行った自己紹介やファシリテートの進行スライドを準備し、投影（テーマの見える化）できたため話し合いのテーマにそって、順調に意見交換ができました。高校生が主体的に参加し、地域住民と積極的に関わり、地域住民にとっても、やりがいを感じる時間になったと評価をいただきました。

ーファシリテートを終わられてのお気持ちやその後の活動はいかがですかー

永瀬 この後の展開として、高校生はワークショップに利用した「ゴメタカフェ」の管理人さんと仲良くなり、町のイベント「ブランドメッセージフェスティバル」において、一緒にコーヒーの店頭販売をすることになり、コップに貼るシールデザインも高校生が担当しました。

「生命地域ラボ」は生徒が学んだことを実際に行動に移す「意欲」を応援することで、主体的に他者と協働する力を育成することをねらいとしています。今回のファシリテート経験ができたことは、高校魅力化コーディネーターとしてのスキルアップの機会になり、高校生と地域の方のよい関係づくりにもつながりました。

